



NETUREN
REPORT

2011

第101期
中間ネツレンレポート

2011年4月1日から2011年9月30日まで

一より強く、よりしなやかにー
ファイン・ヒート・テクノロジー

 **ネツレン**
NETUREN 高周波熱錬株式会社

証券コード 5976

MESSAGE FROM THE MANAGEMENT

株主の皆様へ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社の第101期中間ネツレンレポートをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による被災またはサプライチェーンの寸断のために、国内需要が大きく低迷しました。このような状況は、後半になって徐々に回復してきたとはいえ、電力使用制限が企業の生産活動にとって大きな足枷となるとともに、世界的な金融市場の混乱を受けた円高の進行も企業業績に悪影響を与えました。

海外においては、中国は金融引き締めによる景気の減速不安が広がっており、EU諸国はソブリンリスク問題を抱え、米国は株価の下落などによる経済的な閉塞感が強まっております。また、これらの世界経済を取り巻く状況が、さらに円高局面を助長させる動きとなって表れております。

このような状況のもと、当社グループは、第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」（3カ年計画）に基づき、新商品・新技術の開発および拡販、国内外の生産拠点の充実を図るとともに、コストダウンおよび業務効率化に丸となって取り組みました。

また、震災による業績への影響を最小限度にとどめるべく、資材の必要調達量を確保するとともに、操業日や勤務時間の変更などにより電力使用制限に協力しつつ、生産効率の維持向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は22,027百万円（前年同期比22.1%増）、営業利益は2,186百万円（前年同期比68.9%増）、経常利益は2,326百万円（前年同期比58.7%増）、特別損失に投資有価証券評価損を313百万円計上したことにより、四半期純利益は1,201百万円（前年同期比32.2%増）となりました。

当社は、長期的な企業競争力の強化と企業価値の最大化を目指し、重点分野への設備投資や研究開発投資への充當を図るべく、内部留保の充実に意を尽くすとともに、株主の皆様への配当につきましては、安定した配当を継続していくという方針に加え、業績に応じた利益配分を行うこととし、当社グループを取り巻く経営環境および財務の状況等を勘案のうえ、決定していくことを基本方針としております。なお、原則として、「安定した配当」につきましては、当面、年10円を下限とし、また、「業績に応じた利益配分」につきましては、連結配当性向25%以上を目処といたします。

当第2四半期連結累計期間における中間配当につきましては、当社の上記配当政策に基づき、1株につき金6円とさせていただきます。

今後、わが国経済は、設備投資や個人消費の回復を受け、景気の持ち直しが期待されるものの、電力供給の制約や原子力災害の影響が解消されていないことに加え、海外景気の下振れ、円高、株安およびタイ洪水による新たなサプライチェーンの寸断等のリスクが依然として存在しており、その先行きは不透明な状況が継続すると見込まれます。

このような経営環境のもと、当社グループは、本年度に最終年度を迎える第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」に基づき収益力の向上を図ることにより、高い成長力・効率性を有する企業グループを目指し、ネツレングループの企業価値向上に邁進していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成23年12月



代表取締役会長

山下英治

代表取締役社長

福原 哲一

日本熱処理技術協会賞を受賞

平成23年5月、生田技術本部副本部長が社団法人日本熱処理技術協会より「技術賞（粉生賞）」を、荒川IH事業部長付が「熱処理技術功労賞」をそれぞれ受賞いたしました。

「技術賞（粉生賞）」は、熱処理設備あるいは熱処理技術の開発、改良に貢献し、将来を嘱望される者に対し、また「熱処理技術功労賞」は、長年にわたり現場技術者、技能者として熱処理技術の発展に顕著な貢献をした者に対し授与されるものです。

今後とも社業に精励し、さらなる発展を目指す所存であります。



表彰を受ける生田副本部長

工場見学会の実施

平成23年10月、岡山県立倉敷工業高等学校の約80名の生徒の皆さんが、工場見学のために当社岡山工場（岡山県総社市）に来場されました。限られた時間の中、自動車部品等の熱処理工程を熱心に見学されておりました。

工場見学後には、活発な質疑がなされました。



工場見学会の様子

「ネットレンCSRレポート2011」の発行

平成23年10月、当社は、持続可能な社会の実現に向けたCSR（Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任）の取り組みについて、すべてのステークホルダーの皆さまにお伝えするとともに、活動のさらなる向上を目的に「ネットレンCSRレポート2011」を発行いたしました。

今回の「ネットレンCSRレポート2011」では、ネットレンの基幹技術であるIH（高周波誘導加熱）技術とその製品を通じた環境負荷低減についての報告に加え、創業65周年にあたり、これまでの歩みを振り返るとともに、ネットレンの「モノづくり」と「人づくり」に焦点をあて報告をしています。

主な掲載内容

- ・ トップコミットメント
- ・ ネットレングループのCSR
- ・ 特集1 無公害・省資源の「ダブル・エコ」で社会の発展に貢献
- ・ 特集2 創業65周年とネットレンの「モノづくり」「人づくり」
- ・ 社会性報告
- ・ 環境報告
- ・ ガバナンス
- ・ 第三者意見／第三者意見を受けて
- ・ 世界に広がるネットレンネットワーク



「ネットレンCSRレポート2011」

※「ネットレンCSRレポート2011」は当社ホームページに掲載しております。

<http://www.k-neturen.co.jp/>

高周波焼入れのフロンティアで活躍する熱処理シミュレーション

高周波焼入れは、クリーンな電気エネルギーを使用し、エネルギー効率が良く経済的で地球環境にやさしい技術として、自動車・建設機械および工作機械などの多くの部品の耐磨耗性、疲労強度、靱性向上のため広く適用されています。

加熱は、対象部品の周りに設置した加熱コイルに高周波電流を流すことにより対象部品内に電磁誘導による誘導電流を発生させ、そのジュール熱で行われるため、急速加熱を特長としています。

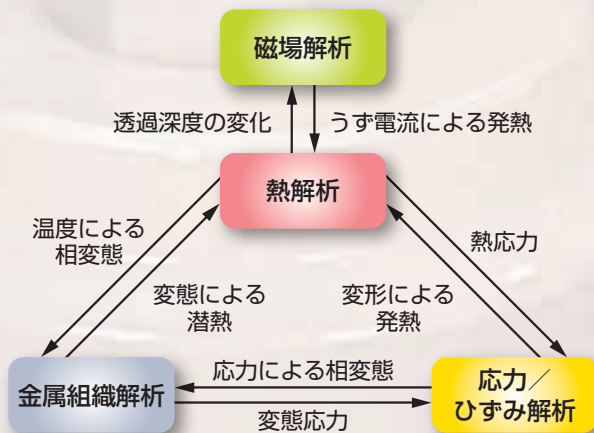
ネツレンでは、高周波焼入れプロセスをコンピュータシミュレーションにより解析し、試作時間の短縮を図るとともに、熱処理後の変形や硬さ分布、残留応力などの予測を行い、熱処理品質が最適になるように加熱コイル設計や熱処理条件の設定を行っています。

高周波熱処理シミュレーションでは、小型スーパーコンピュータを使用して、磁場解析、熱解析、金属組織解析、応力／ひずみ解析を同時に連成させながら高精度で解析する方法をとっています。

今後も高周波熱処理技術はさらに進歩し、より高精度で高品質が求められるため、コンピュータシミュレーションによる熱処理解析の活躍の場が増えていくことから、ネツレンでは常にNo.1の計算技術と実用性の向上を目指して努力を続けていきます。



加熱コイルと計算対象焼入部品



高周波熱処理シミュレーションの連成解析図



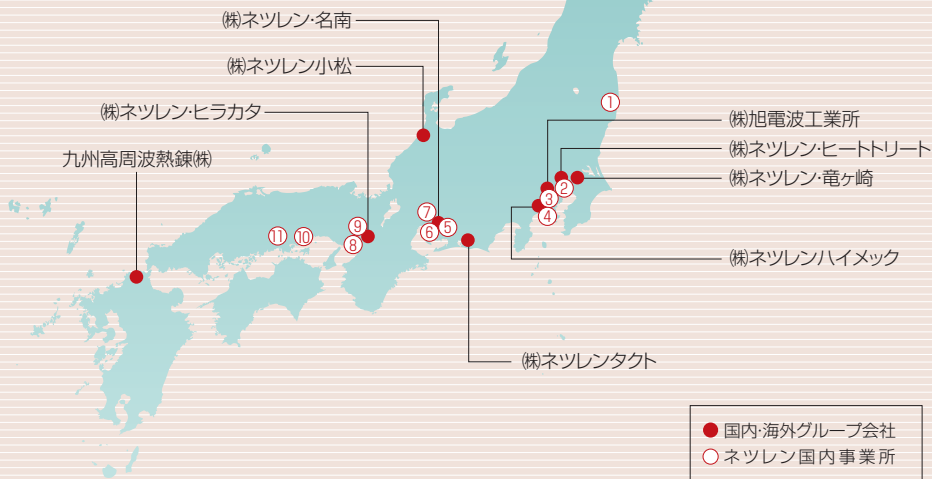
焼入時の部品断面の温度分布

ビジネスフィールドを創造し、さらなる飛躍を目指します。



ネットレン国内事業所一覧

- ① いわき工場
- ② 本社
- ③ 寒川工場
- ④ 湘南事業所・平塚工場
- ⑤ 名古屋工場
- ⑥ 刈谷工場
- ⑦ 可児工場
- ⑧ 尼崎工場
- ⑨ 神戸工場
- ⑩ 赤穂工場
- ⑪ 岡山工場

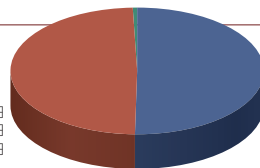


SEGMENT INFORMATION

セグメント別営業の概況

セグメント別売上高構成比

■ 製品事業部関連事業	50.3%	11,082百万円
■ IH事業部関連事業	49.3%	10,860百万円
■ その他	0.4%	84百万円



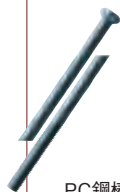
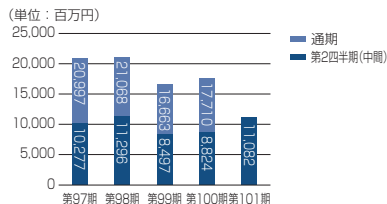
製品事業部関連事業

当社主力製品である建設関連製品の販売量は、前年同期と比較し増加いたしました。これは、主として、高強度せん断補強筋の受注が増加したことなどによります。

また、自動車・二輪車向けサスペンション用ばね等に使用される高強度ばね鋼線（ITW®）の販売量は、前年同期と比較し、国内においては減少したものの、中国での販売が比較的堅調であったことなどにより増加いたしました。

この結果、売上高は、11,082百万円（前年同期比25.6%増）となりました。

売上高の推移



PC鋼棒



せん断補強筋



サスペンション用ばねの使用例

PC鋼棒関連製品

高周波熱処理を応用したプレストレストコンクリート用部材である高強度、高品質のPC鋼棒および関連製品の製造・販売を行っております。

ばね鋼線関連製品

高周波熱処理された冷間成形用の高強度ばね鋼線（ITW®）の製造・販売を行っております。

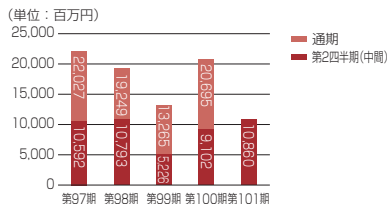
IH事業部関連事業

震災の影響による顧客の操業度低下により、熱処理受託加工関連、自動車部品関連においては一時的な落ち込みがあったものの、後半になって受注量が回復し、売上高は、前年同期と比較し増加いたしました。建設機械部品関連においては、中国の景気減速等の影響で受注が伸び悩みましたが、前年同期並の売上を確保することができました。

また、誘導加熱装置関連においては、一部に震災の影響があったものの、企業の設備投資意欲は回復しつつあり、売上高は前年同期と比較し増加いたしました。

この結果、売上高は、10,860百万円（前年同期比19.3%増）となりました。

売上高の推移



巡回輪の高周波焼入れ



コンパクトCVJ焼入機

熱処理受託加工関連

高周波熱処理を中心にあらゆる機械部品の熱処理受託加工を行っております。

自動車部品関連／建設機械部品関連

中空ラックバー、EPS用ウォームホイール等の自動車部品および建設機械用旋回ユニットの製造・販売を行っております。

誘導加熱装置関連

誘導加熱・熱処理装置、周波数変換装置等の設計・製作・販売・エンジニアリングを行っております。

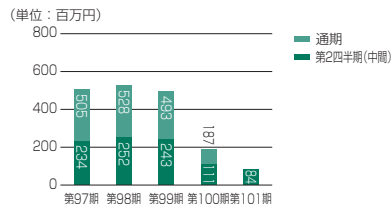
その他

当該セグメントは、報告セグメントに含まれない不動産賃貸事業等でありです。

前連結会計年度において、当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス2.5フロアのうち、1フロアを売却したことなどにより、賃貸収入は減少しました。

この結果、売上高は84百万円（前年同期比24.3%減）となりました。

売上高の推移



オーバルコート大崎マークウエスト

賃貸事業

「オーバルコート大崎マークウエスト」に当社が所有するフロアおよび当社が行う事業に関連する設備等の賃貸事業であります。

その他

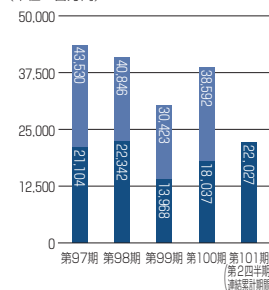
上記以外の事業であります。

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

連結財務ハイライト

売上高

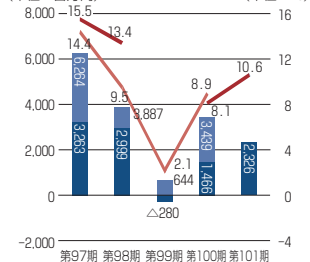
(単位: 百万円)



通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青)

経常損益／経常利益率

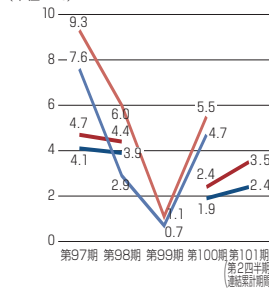
(単位: 百万円)



通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青) 経常損益 (青) 経常利益率 (赤)

ROE／ROA

(単位: %)

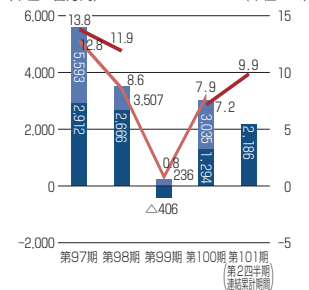


通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青) ROE (赤) ROA (青)

※第99期第2四半期連結累計期間における営業損益、経常損益および四半期純損益がマイナスのため、関連指標につきましては表記していません。

営業損益／営業利益率

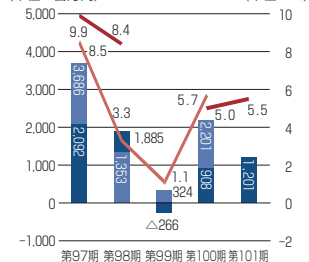
(単位: 百万円)



通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青) 営業損益 (青) 営業利益率 (赤)

四半期(当期)純損益／四半期(当期)純利益率

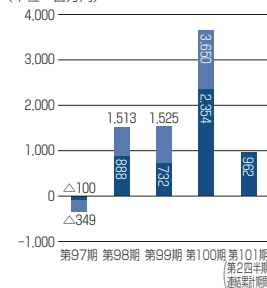
(単位: 百万円)



通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青) 当期純損益 (青) 四半期純利益率 (赤)

フリーキャッシュ・フロー

(単位: 百万円)



通期 (青) 第2四半期(中間) (濃青)

●資産の部

流動資産は、前期比10.0%増加の321億62百万円となりました。これは、生産量増加、売上増加に伴い、たな卸資産が13億48百万円、受取手形及び売掛金が8億84百万円それぞれ増加したことが主な理由です。

固定資産は、前期比1.3%減少し、346億66百万円となりました。これは、建設仮勘定の増加などにより有形固定資産が7億24百万円増加したものの、保有株式の時価下落などにより投資有価証券が11億93百万円減少したことが主な理由です。

この結果、資産合計は、前期比3.9%増加の668億29百万円となりました。

●負債の部

流動負債は前期比11.8%増加の146億65百万円となりました。これは、仕入の増加に伴い、支払手形及び買掛金が14億89百万円増加したことなどによります。

固定負債は、長期借入金の返済が進んだことなどにより、前期比31.0%減少の12億95百万円となりました。

この結果、負債合計は、前期比6.4%増加の159億60百万円となりました。

●純資産の部

株主資本は、利益剰余金が9億88百万円増加したことにより、前期比2.0%増加の498億86百万円となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は72.2%となりました。また、純資産合計は前期比3.1%増加の508億68百万円となりました。

今後、資産および株主資本の効率性を高めることにより、より強靱な財務体質を構築していく所存です。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

財務諸表の概況（連結）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前連結会計年度末 平成23年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 平成23年9月30日現在	科 目	前連結会計年度末 平成23年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 平成23年9月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	29,226	32,162	流動負債	13,120	14,665
現金及び預金	10,098	11,577	支払手形及び買掛金	5,091	6,581
受取手形及び売掛金	14,438	15,323	短期借入金	2,360	2,342
有価証券	601	—	未払法人税等	1,226	667
商品及び製品	585	622	賞与引当金	543	664
仕掛品	1,085	2,092	その他	3,898	4,408
原材料及び貯蔵品	1,389	1,693	固定負債	1,876	1,295
その他	1,124	943	長期借入金	586	257
貸倒引当金	△97	△90	引当金	250	238
固定資産	35,116	34,666	その他	1,039	799
有形固定資産	24,377	25,101	負債合計	14,997	15,960
建物及び構築物	7,004	7,043	純資産の部		
機械装置及び運搬具	7,467	6,981	株主資本	48,897	49,886
土地	9,094	9,459	資本金	6,418	6,418
建設仮勘定	601	1,398	資本剰余金	5,528	5,528
その他	209	219	利益剰余金	38,606	39,594
無形固定資産	351	327	自己株式	△1,655	△1,655
のれん	133	109	その他の包括利益累計額	△1,883	△1,603
その他	218	217	その他有価証券評価差額金	30	△287
投資その他の資産	10,386	9,237	為替換算調整勘定	△1,914	△1,315
投資有価証券	10,053	8,860	少数株主持分	2,329	2,585
長期貸付金	131	135	純資産合計	49,344	50,868
その他	434	484	負債及び純資産合計	64,342	66,829
貸倒引当金	△233	△243			
資産合計	64,342	66,829			

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
売上高	18,037	22,027
売上原価	14,171	16,897
売上総利益	3,865	5,129
販売費及び一般管理費	2,571	2,943
営業利益	1,294	2,186
営業外収益	335	294
営業外費用	163	154
経常利益	1,466	2,326
特別利益	429	9
特別損失	314	332
税金等調整前四半期純利益	1,581	2,003
法人税等	597	692
少数株主損益調整前四半期純利益	984	1,310
少数株主利益	75	108
四半期純利益	908	1,201

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,180	2,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	△826	△1,099
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459	△453
現金及び現金同等物に係る換算差額	△73	△26
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,821	482
現金及び現金同等物の期首残高	7,346	9,493
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	996
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,168	10,971

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

STOCK INFORMATION

株式情報

(平成23年9月30日現在)

株式の状況

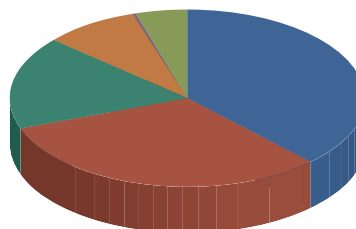
発行可能株式総数 150,000,000株
 発行済株式の総数 44,713,930株
 株主数 4,534名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,086	11.9
新日本製鐵株式会社	4,101	9.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,676	6.3
株式会社メタルワン	2,288	5.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,432	3.4
JFEスチール株式会社	1,171	2.7
株式会社三井住友銀行	907	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	855	2.0
NTN株式会社	836	2.0
第一生命保険株式会社	826	1.9

- (注) 1. 当社は、自己株式2,072千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)および日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)の持株数は、信託業務に係るものであります。

所有者別株式分布状況

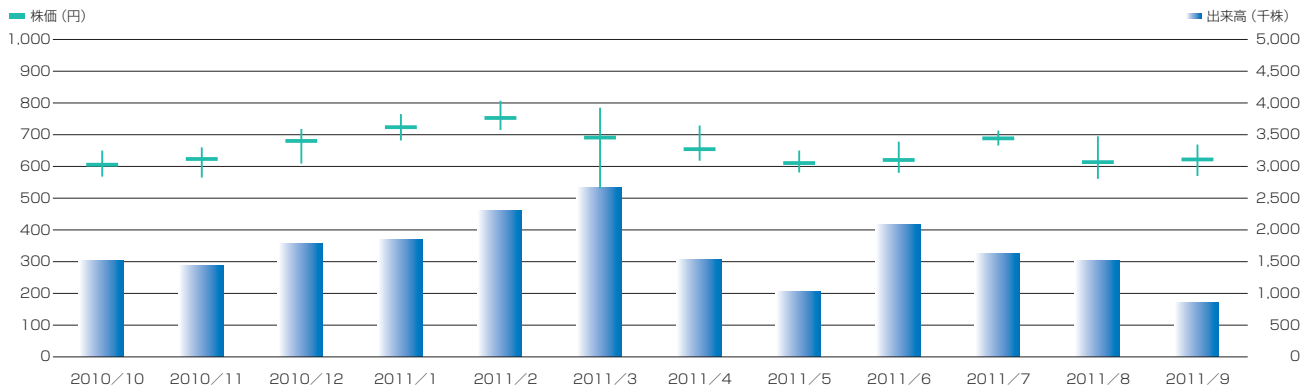


金融機関	16,944千株	37.9%
その他の法人	14,193千株	31.8%
個人・その他	7,463千株	16.7%
外国法人等	3,930千株	8.8%
証券会社	108千株	0.2%
自己株式	2,072千株	4.6%

44,713千株 100.0%

- (注) 上記円グラフには、自己株式2,072千株が含まれております。

株価および出来高の推移



CORPORATE DATA

会社概要

(平成23年9月30日現在)

商号	高周波熱錬株式会社 Neturen Co.,Ltd.
所在地	〒141-8639 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 オーバルコート大崎マークウエスト
TEL	03-3443-5441 (代表)
FAX	03-3449-3969
設立	昭和21年(1946年)5月15日(現社名)
資本金	6,418,359,752円
従業員数	連結 1,239名 単独 744名
役員	(代表取締役)取締役会長 山下英治 (代表取締役)取締役社長 福原哲一 専務取締役 萩野學 常務取締役 川崎一博 常務取締役 溝口茂 取締役 中尾安幸 取締役 元木信二郎 取締役 合屋純一 取締役(社外取締役) 齊藤誠 監査役(常勤) 沼田恵 監査役(社外監査役) 原安洋 監査役(社外監査役) 浦部善和

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当金	毎年3月31日
	中間配当金	毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417

(インターネット) <http://www.sumitomotrust.co.jp/>
(ホームページURL) [STA/retail/service/daiko/index.html](http://www.k-neturen.co.jp/ir/kohkoku/kohkoku.html)

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載します。
(<http://www.k-neturen.co.jp/ir/kohkoku/kohkoku.html>)

上場金融商品取引所 東京証券取引所(市場第1部)

－ 1 単元(100株)未満の株式をお持ちの株主様へ－

単元未満株式(100株未満の株式)をご所有の場合、その単元未満株式と併せて単元株式数(100株)となる数の株式について、当社に買増請求することができます。また、簡単なお手続きにより、ご所有の単元未満株式を買取請求することもできます。

なお、当社では、当社単元未満株式の買増・買取に関する手数料を無料としておりますので、ご案内申し上げます。

また、いずれのお手続きも、詳細につきましては、証券会社にて口座を開設されている株主様につきましてはお取引の証券会社に、特別口座を開設の株主様につきましては当社特別口座の口座管理機関である住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせください。